

梅雨のさなか、色鮮やかなアジサイが目を楽しませてくれる季節になりました。

現在会員登録数 3,554 人さま。次号は 7 月 20 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 第 18 回国際グリム賞の受賞者が決定しました

世界の優れた児童文学研究者を顕彰する第 18 回「国際グリム賞」（国際児童文学研究賞）の受賞者が、朱 自強 教授（中国海洋大学教授）に決定しました。贈呈式および記念講演会は、令和 4 年春に開催する予定です。詳細は後日お知らせします。

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／

一般財団法人 金蘭会／大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

詳細は↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#grimm_18

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 35 号の原稿を募集しています。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第 34 号」を販売しています。

発行：当財団 2021 年 3 月 A5 判 106 頁 1650 円（税込）

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のためにー 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間 1 万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント！

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#special

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

子ども向けに紹介する「YouTube 版 本の海大冒険」(絵本編・読物編・YA編・科学編、各回3~5分)は毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ！」(各回約30分)は毎月10日に配信しています。ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いします。公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム
■ ----- ■

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『大江戸豆吉 けんか餅』 桐生環/作 野間与太郎/絵 フレーベル館

2021年5月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：江戸時代の江戸。菓子屋の老舗、鶴亀屋の若旦那が店先でけんかをしたため、旦那様から一人で店をするようにと言渡される。そして、旦那様は、小僧の豆吉に若旦那についていくようにと言う。けんかの相手は建具屋の辰五郎で、新しい店にも現れ、けんか餅が生まれるきっかけになる。また、火消しの娘で髪結いのお竜、その妹のお駒もやってきて、店がにぎやかになる。最後は大名に納めるお菓子を若旦那が作ることで、豆吉も、周りの人達も手伝う。

T：けんかっぱやいが、腕もいいし、仕事熱心な菓子職人の若旦那と小僧の豆吉を描いた子ども向けの時代小説ができました。

Y：江戸の町の様子がいきいきと描かれていて、町の人たちのぼんぼんとはずむような会話が楽しく、一気に読みました。

T：若旦那が追い出されるきっかけは、「大福餅の餅は厚いほうがいいか、うすいほうがいいか」で、鶴亀屋の店先で建具屋の辰五郎とけんかをしますが、豆吉と店を出すようになって、だんだんけんかの質が変わってきて、仕事上の勝負になっていきます。

Y：大福餅のけんかの決着もおもしろく、若旦那は、辰五郎をやりこめるために、あえて豆吉に厚い餅の大福餅を作らせ、それが、「菓子職人豆吉の初仕事」になり、けんか餅と呼ばれるようになります。そういう意味で、この作品は、豆吉の成長物語にもなっています。若旦那が実は人情深いのも魅力です。

T：作品は、けんか餅が生まれるまでの前半と、辰五郎の依頼で大量の餅を用意する小休止をはさんで、若旦那が大名に納めるお菓子を作る後半で構成されています。とてもまとまりのある構成だと思いました。

また、「豆吉のお江戸豆ちしき」というコラムがあって本文中の説明だけでなく、江戸のことがよくわかります。

Y：若旦那、辰五郎、そして、二人のけんかを最初に止めた、やはりけんかっぱやい髪結いのお竜さん、お竜さんの父親で火消の組頭の虎太郎など、みんな職人氣質でかっこいいと思いました。

特に若旦那が豆吉とお大名に納めるお菓子を考えると、道具や作り方などが丁寧に描かれ、文化の継承が物語として描かれているとも言え

ます。

T：子どもが読める時代小説の文体を意識して創ろうとしているように見える点も興味深かったです。冒頭は落語の語りのような工夫が見られました。作品の最後には気味の悪い男が豆吉たちを見ている場面で終わります。この巻の登場人物はみんな善人でしたが、次の巻には悪人も出てくるのでしょうか。楽しみにしたいと思います。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第70回「黒ぶどう」

仔牛へのやさしいまなざし

今回は、「黒ぶどう」を取り上げます。

仔牛が柵の中で頭をぶらぶら振っていたら、赤狐が風のように走ってきて散歩に誘います。二人は林の方へ向かい、樺林の中のベチュラ公爵の別荘の前を通りかかります。手慣れた狐に導かれて、仔牛もこわごわ中に入ります。

最初に二人が入った部屋は本ばかりで、狐は〈何だい。ここは書物ばかりだい。面白くないや〉。しかし仔牛は、〈支那の地理のことを書いた本なら見たいなあ〉と思います。次に入った部屋は着物のみで、狐が〈何だい、この室はきものばかりだい。見っともないや〉と言うのに対し、仔牛は〈僕はあのいつか公爵の子供が着て居た赤い上着なら見たいなあ〉と思います。

最後に入った部屋で、まっ白な皿にのった黒ぶどうを発見した二人。狐は〈つゆばかり吸って皮と肉とさねは一しょに絨鍛の上にはきだし〉、仔牛は〈コツコツコツと葡萄のたねをかみ砕〉きます。そこへ公爵らが戻ってきて、狐は慌てて逃げだし、仔牛は公爵の娘から黄色いリボンを結んでもらいます。

〈書物〉（＝知）や〈きもの〉（＝美）にはまったく関心を示さず、〈黒ぶどう〉（＝食）にのみ執着する狐。かたや、〈黒ぶどう〉にはさして興味を示さず、〈書物〉や〈きもの〉に反応する仔牛。あくまで現実的な狐と、実利的なものよりはむしろ、知的・美的なものに価値を見いだす仔牛。両者の対照的にして異なる存在感が際立つ、鮮やかな作品です。

「野生の狐はうまく逃げ、家畜の牛は残って人間との関係を深める」（米地文夫）ところに、本作の寓意があるといえるのかもかもしれません。そして、逃げていく狐とは裏腹に、末尾で公爵の娘から〈黄いろのリボン〉を結んでもらった仔牛に対する、賢治のあたたかな眼差しを感じられる作品とも言えます。

（ペ吉）

（本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション5 なめとこ山の熊』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 24

ジョゼルの歯は、きれいにそろっていたけれど、大きすぎて口からはみだしている。だから口をきちんと結ぶのに苦労する。ジョゼルは、自分の歯を『ピアノの鍵盤』とよんでいた。ジョゼルには、そわそわと手を口元を持っていては、歯をピアノに見たてて、ハミングしながら弾くふりをするクセがあった。

(『夏の丘、石のことば』ケヴィン・ヘンクス/作 多賀京子/訳 徳間書店
1996年5月 p.37)

『夏の丘、石のことば』には、母親がボーイフレンドとだけの時間を作るために祖母の家に預けられた少女ジョゼルと、祖母の家と丘を隔てた家に住み、5歳のときに癌で母を亡くした10歳の少年ブレイズが登場します。ブレイズは、母と観覧車に乗った思い出を再現するため、6歳になったとき、一人で観覧車に乗ろうとしますが、列に並んでいるときに、火事が起きてやけどをおってしまい、そのことがトラウマになっています。

ジョゼルは、祖母からブレイズの過去を聞き、「自分より、もっとぐちゃぐちゃした気持ちにさせれば、自分の重い心が少しは軽くなるかもしれない」と感じて、丘の上に石でブレイズの母の名前と「かじだ!」「からだに火がついた」ということばを書きます。そして、その後、ジョゼルは自分のしたことを隠してブレイズと仲のいい友だちになります。

冒頭に紹介したジョゼルの自虐的ともいえるクセは、15年前に読んだときからずっと私の心の中に残っていました。自分の歯をピアノに見立てて弾くという行為は、母の気まぐれで喜ばれたりうとんじられたりします。ジョゼルが陽気にふるまえばふるまうほど、彼女の孤独が響いてくるように感じました。(Y)

《4》 行って来ました!

神戸ゆかりの美術館で7月18日まで開催されている特別展「G I G A ・ M A N G A 江戸戯画から近代漫画へ」に行ってきました。漫画・風刺画研究家の清水勲(1939~2021)監修による展覧会で、江戸戯画から明治・大正期の風刺漫画雑誌、昭和戦中期の子ども漫画等、約320点の作品・資料を通じて、日本の漫画の変遷をたどることができます(前期・後期で展示品に入替あり)。

展示は第1章「商品としての量産漫画の誕生」、第2章「職業漫画家の誕生～ポンチ・漫画の時代へ～」、第3章「ストーリー漫画の台頭～昭和初期から終戦まで～」で構成され、時代を追って見ることができます。江戸時代に木版の技術が発達し、町人も本を読むようになったことを反映して、戯画本や錦絵がたくさん展示されています。

特に第1章にたっぷり資料が展示されており、江戸時代のさまざまな絵から漫画の萌芽が読み取れます。「鳥羽絵」の人物は手足が細長く、目は点で、簡潔な線で描かれています。煮えたぎる鍋の上を跳び越す人や、肘をついて腕相撲している人の絵など、表情がいきいきしていて、体の動きが感じられ

ます。何人もの人を絡み合わせて人物の顔や体を描いた「寄せ絵」や、おかしなポーズの影を障子に映した「影絵」などの「遊び絵」、地震と結びつけて描かれた「鯰絵」、勢力の対決を風刺的に表した「合戦絵」など、いろいろな種類の絵が展示されていきました。江戸時代後期には幕府を批判する風刺画が人気だったそうで、歌川国芳の天保の改革を風刺した「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」など、現代の風刺漫画とのつながりを感じることもできる絵がたくさんありました。

第2章、第3章になると、海外から影響を受けた「THE JAPAN PUNCH」なども紹介され、現代の漫画が、日本の伝統と海外の影響を受けながら生まれてきたことを改めて感じることができました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 追悼展「ありがとう 絵本作家・田畑精一の歩いた道」
昨年亡くなった絵本作家・田畑精一さんの画業を偲び、絵本や紙芝居などの原画や、若いころ制作に関わった人形などが展示されます。
会 場：ギャラリー路草（東京都豊島区）
会 期：6月24日（木）～6月29日（火） 午前11時～午後6時
入場料：有料 高校生以下無料
主 催：「ありがとう 絵本作家・田畑精一の歩いた道」実行委員会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『大江戸豆吉 けんか餅』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.130 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は7月12日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

大阪では緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置に切り替えられました。ワクチン接種もようやく進展のきざしが見えてきました。コロナ後の楽しみをあれこれ想像して、沈静を待ちたいと思います。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお

願います。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
